

藤枝大祭りの歴史と見どころ



山車の操作等

昭和期

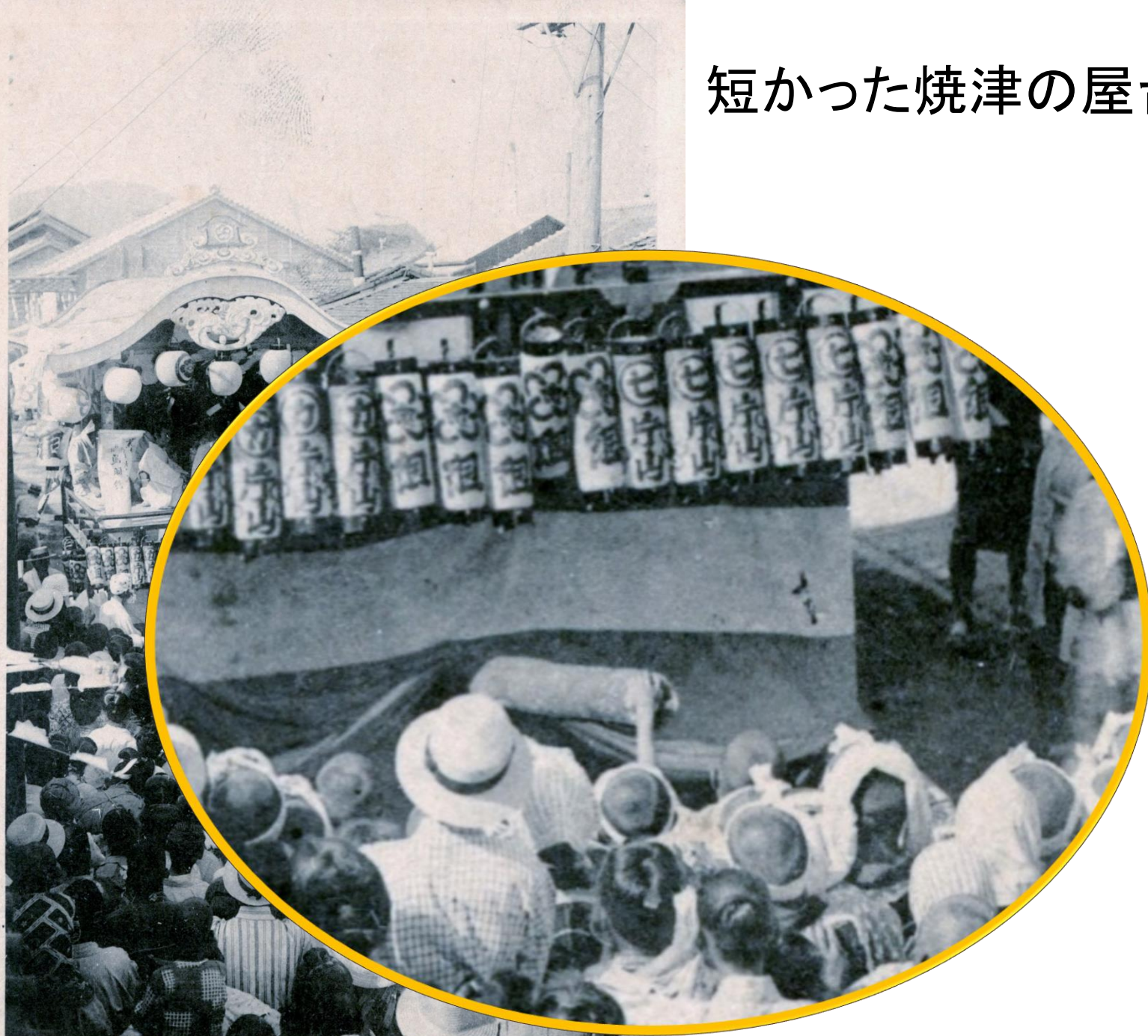
- ・子供から大人まで揃いの法被となる。
- ・戦前・・・屋台は、前方の舵棒（「テコ棒」）と、後方の梶子棒とで回転させていた。



◀ 島田の梶子棒



短かった焼津の屋台の舵棒



梅組御休町屋台

焼津神社大祭

- ・戦後・・・砲丸を用いるようになり、梃子棒は不要になった。
その分、前方の「テコ棒」の役割が大きくなり、長くなった。ただし、その長さは回転の際に屋台下に収納できるサイズ。



▲ 砲丸





- 松を輪切りにした「わっぱ」は、年々調達困難。
- きしむ音が屋台の重厚感を感じさせる。

- 全国的に珍しい、たった1本の長大な舵棒(「テコ棒」)。その進化のルーツとなる「砲丸回し」を行っているのは、今や益津区だけ。





砲丸により、
少し長くなった「テコ棒」

昭和31年(1956)

道路の拡幅により大回しが可能となり、「テコ棒」は長大化

